

「気象業務はいま 2025」の刊行について

気象庁では、気象庁の取り組みの現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的として、「気象業務はいま」を毎年6月1日の気象記念日にあわせて刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2025」は、6月2日に気象庁ホームページに掲載する予定です（URLは以下）。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>

「気象業務はいま 2025」の主な内容は次の通りです（より詳細な目次構成は次のページに掲載しています）。

○ 特集

気象庁の取り組みの中から、特に皆様へお伝えしたいものに焦点を当て、内容を詳細に紹介するコーナーです。今年は、「気象業務 150 周年」について特集し、気象業務の歴史や、関連する記念事業などを紹介しています。

○ トピックス

気象庁の最新の取り組み等を紹介するコーナーです。今年は、地域防災支援、線状降水帯や台風等による気象災害への対策、気候変動対策、地震・津波・火山に関する情報提供、国際協力などに関する取組を取り上げています。

なお、「気象業務はいま 2025」は、全国の書店及び政府刊行物センターでも、注文販売の形で取り扱う予定です。

「気象業務はいま 2025」の構成

○ 特集

気象業務 150 周年 ～歩み続けて 150 年 防ぐ災害・守る未来～

- 1 気象業務 150 年の歴史
- 2 気象業務 150 周年記念事業
- 3 広報・普及啓発の取組

○ トピックス

I 地域防災支援の取組

- I-1 平時・災害時の地域防災支援の取組
- I-2 指定公共機関等との取組
- I-3 気象防災アドバイザーの拡充

II 線状降水帯や台風等による気象災害への対策

- II-1 防災気象情報の体系整理と最適な活用に向けて
- II-2 線状降水帯関連の取組
- II-3 台風情報の高度化に関する検討
- II-4 竜巻等突風の強さの評定に関する検討会
- II-5 梅雨期九州の集中豪雨、明け方から朝に頻発、顕著な増加傾向

III 気候変動対策への一層の貢献

- III-1 「日本の気候変動 2025」を公表しました
- III-2 気候変動対策に資する科学的知見の提供
- III-3 令和 6 年夏から秋にかけての日本の顕著な高温の要因
- III-4 記録的に高かった日本近海の海面水温

IV 地震・津波・火山に関するきめ細かな情報の提供

- IV-1 初めての「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」発表
- IV-2 令和 6 年能登半島地震の振り返り
- IV-3 『津波フラッグ』による津波警報等の伝達気象分野における気象情報の提供
- IV-4 阪神・淡路大震災から 30 年
- IV-5 広域降灰対策に資する降灰予測情報に関する検討会
- IV-6 火山噴火予知連絡会 50 年を振り返って

V 気象庁の国際協力と世界への貢献

- V-1 WMO 専門委員会と気象庁の貢献
- V-2 オーストラリア気象局と「気象衛星の利用に関する協力覚書」を締結
- V-3 第 6 回世界気候研究計画（WCRP）再解析国際会議の開催

VI 次世代に向けた基盤的な技術開発と官民連携の推進

- VI-1 気象庁の中長期的な施策の方向性
- VI-2 先端 AI と協調した気象業務の強化
- VI-3 面的気象情報の拡充と利活用の推進
- VI-4 気象ビジネスにおけるデータ利活用促進の取り組み
- VI-5 民間気象事業者との気候情報活用促進の取組について

資料編

第三者創作図表リスト、全国気象官署一覧、「気象業務はいま 2025」の利用について